



中立えこみ二通信

第 27 号

2026年3月 《発行》 中立エコ生活推進会議 議長 藤原 信生

中立ふれあいもちつき大会



1月18日、令和7年度中立ふれあいもちつき大会が、新町小学校で開催されました。約300名の学区民のみなさんにご参加いただき、例年通り、磯部巻き、あべかわ、ぜんざいの3種類のメニューで楽しんでいただきました。今年は、初めて正式におもちつきを体験していただく時間を設け、親子でご参加いただきました。



また、新町っこ探究団のみなもお手伝いを頑張ってくれました。

また、11時から、ひまわりホールで、上京警察署のご協力のもと「防犯教室」が開催され、117名の方々が参加されました。



中立学区のおもちつきは、火起こしからつきあがりまで、電気やガスを一切使わずに実施されます。カマドは、不要となった薪を学区民の方から頂いたものを利用し、早朝から、新聞紙を用いて火起こ



しをします。金曜日から水に浸している京北町から購入したもち米は、4基のカマドに、3つ重ねられた蒸し器に入れ、蒸されていきます。蒸されたもち米は、

2つの臼を用いて、杵でついていきます。出来上がったおもちは、即時に、磯部巻き、あべかわ、ぜんざい(ここでのみガスを使用)になります。今年のおちは、柔らかくのびのいい素晴らしい仕上がりになりました。



ごみは、分別収集を徹底し、重ねて捨てる中立方式でかさべらしをしました。

もちつき大会は、伝統文化の継承、地域の食材の使用、地域コミュニティ活性化への貢献、ゴミの分別化など、環境と地域社会を考えるエシカルな視点からも重要な行事であるということが出来ます。カマドの災害時の利用も考えると、今後もこの形で続けていきたいと思ひます。

第99回堀川清掃について

「堀川と堀川通りを美しくする会」では、下記の通り堀川の清掃を行いますので、ご案内いたします。

どなたでもご参加できます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

記

日 時 令和8年3月15日(日)午前7時から
※午前6時現在雨天の場合中止
集合場所 みどり公園内(中立売通小川角)
清掃場所 戻橋～下長者町橋

堀川と堀川通りを美しくする会
中立学区代表 辻井 啓三郎

TEL 431-0776



第15回

堀川桜まつり

開 会 式

日 時：3月29日午前10時
場 所：堀川中立売河川敷

模擬店・各種イベント
開催時間：10時30分～15時30分
会 場：堀川押小路通
～一条戻橋

中立学区メニュー
骨付きウインナー
ビール

舞洲工場見学

去る2月3日、「令和7年度上京区地域ごみ減量推進会議の環境施設見学」で大阪広域環境施設組合舞洲工場へ行ってきました。世界一美しいごみ処理施設と言われている「舞洲工場」は、見学も大人気で予約が取れず、数年越しの思いが叶ったの見学となりました。

1 環境保護建築である舞洲工場



2001年に建てられた舞洲工場の最大の特徴は、遠方からでも一目でわかる斬新でカラフルな建物です。環境保護建築で有名なウイーンの芸術家フリーデンスラヒ・フンデルトヴァッサー氏によりデザインされたものであり、技術・エコロジー・芸術の融和のシンボルとなるように造られています。



外観をみますと、無数の窓や柱がデザインされていますが、「自然界には、同じ形や色のものは存在しない」という彼の考えから、どれひとつとして同じものはありません。また、「自然界に人工的な直線はない」という考えから、壁や手すりも曲線でデザインされています。



建物の周りには、自然との調和の象徴として、多くの緑が植えられています。

フンデルトヴァッサーは、生涯で2つのごみ焼却炉を設計していますが、もう一つはウイーン市内にある「シュピッテラウごみ焼却場」です。この焼却場も、最初は市民の反発にあいましたが、いまでは、風景にうまく溶け込み、シンボルとして愛されています。

一般的には、ネガティブなイメージを持たれやすいごみ焼却場ですが、その優れたデザインの力で、ごみ焼却場がまるでテーマパークのようにみえます。

2 環境に配慮したごみ処理

舞洲工場は地下2階地上7階建て、約1万7,000平米に及ぶ巨大建築であり、ごみの焼却施設と粗大ゴミの破砕施設があります。

1日に450トン処理できる階段式火格子が2基あり、最大900トンのごみ処理が可能です（京都市の南部クリーンセンターは700t/日）。粗大ゴミは、1日に170トン処理できます。

有害物質の発生を極力抑え、ごみ焼却の熱エネルギーから電力を作る技術を採用しています。その仕組みは、これまで見学に行かせていただいた

工場とほぼ同じです。



遠くからでもすぐわかるシンボルの塔は、煙突です。高さは120メートル、中には、炉が2本入っています（京都市南部クリーンセンターは78m）。エントツの平均的な高さが59メートルであることを考えると非常に高いことがわかります。ごみ処理場の煙突は、高いほうが排気ガスを上空で効率的に拡散させ、地上付近の汚染物質濃度を低くできるため、環境・安全の面で「高いほうがよい」とされています。しかし、煙突の高さは、これらの拡散効果、航空法による規制、地形、周辺の建物などを総合的に考慮して設計されています。昨年度見学に行った豊中市は、隣が伊丹空港のため、低くせざるを得ませんでした。ここ舞洲は、埋立地で、市街地から離れているという利点を活かし、この高さを実現していると思われます。

3 最終処分地としての夢洲

舞洲工場は、廃棄物を環境に配慮しながら処理し生成された灰を安定した最終処分地へ送る役割も担っており、これらは、主に夢洲の北港処分地(夢洲1区)や、大阪湾のフェニックスセンター(大阪広域処分場)で最終処分(埋め立て)されています。このように最終処分場が近いということも、タイパ・コスパの両面から舞洲工場の利点の一つだと思います。

また、京都市の焼却灰の一部は、大阪湾フェニックス計画に基づき、このフェニックスセンターへも搬入されています。

4 見学を終えて

ごみの問題は切実です。夢洲も新たな埋立地での処分が始まっていますが、無限に場所を増やしていけるものではありません。

まずは、ごみの問題を知ってもらうことが大切です。「この美しい建物を見たい」ということが、知るきっかけになれば、こんなにいいことはありません。舞洲工場は、きっかけを与えてくれる力のある建物であると思いました。